

H28

アクションプラン全体計画（平成28～32年度）

推進項目	23 受益者負担の適正化				重要度	A			
番号・取組事業名	23002	駐輪場定期利用使用料・利用料金の見直し		作成日	H28.3.1		更新日	H29.3.31	
担当部署	120700	土木部 交通施設課		責任者	君島 昭一		担当者	自転車対策担当	
取組年度	H28	～	H29						
効果	歳入増加		その他改善						
最終目標	駐輪場定期利用料・利用料金を見直しを図ることで、10年後を目安に駐輪場運営について受益者負担率を10%にする。								
年度	区分	取組内容・目標							
平成28年度	実施	平成27年度に実施したパブリックコメントや協議会での意見、指定管理者との協議を重ね、受益者負担を意識した具体的な料金体系を検討していく。							
平成29年度	完了	平成29年度定期利用料分より新料金体系導入。							
平成30年度									
平成31年度									
平成32年度									
成果指標	指標名	駐輪場使用料および駐輪場管理納付金の増加					単位	千円	
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	最終値	
	当初計画値		53,703	88,000	88,000	88,000	88,000	88,000	
	変更計画値	56,677						0	
実績値		52,138					0		
効果額	歳入増加	当初計画額		△ 2,974	31,323	31,323	31,323	31,323	122,318
		変更計画額	56,677						0
		実績額		△ 4,539					△ 4,539
	歳出削減	当初計画額							0
		変更計画額							0
		実績額							0
計	当初計画額		△ 2,974	31,323	31,323	31,323	31,323	122,318	
	変更計画額	56,677	0	0	0	0	0	0	
	実績額		△ 4,539	0	0	0	0	△ 4,539	
見込まれる その他効果 (金額以外)	各駐輪場ごとの収容率を平準化させる。								

H28

アクションプラン(平成28年度)

推進項目	23 受益者負担の適正化				重要度	A		
番号・取組事業名	23002	駐輪場定期利用使用料・利用料金の見直し	作成日	H28.3.1	更新日	H29.3.31		
担当部署	120700	土木部 交通施設課	責任者	君島 昭一	担当者	自転車対策担当		
	区分	取組内容・目標						
平成28年度	実施	平成27年度に実施したパブリックコメントや協議会での意見, 指定管理者との協議を重ね, 受益者負担を意識した具体的な料金体系を検討していく。						
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
1	自転車等駐車対策協議会			○				
2	指定管理者と協議			○				
3	利用者アンケート				○			
4	料金案を掲示して, 利用者へ意見聴取					○		
5	自転車等駐車対策協議会						○	
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	遅れている	コメント	自転車等駐車対策協議会にて料金改定案を提示。駐輪場利用者の生活に直接影響を与えることや, 委員からも利用者からの意見を聴取するよう指摘を受けたため, アンケートおよび全駐輪場への料金表(案)を掲示し, 再度修正・検討。今年度は条例改正は行わないこととした。				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	駐輪場使用料および駐輪場管理納付金の増加	計画値	単位	千円	実績値	単位	千円
				53,703		52,138		
	達成状況【成果】	未達成	コメント	協議会等での意見から30年度の料金改定に向け, 改めて駐輪場利用者から意見を聴取し, 新料金表案について協議会で諮問を行った。28年度の駐輪場の定期利用使用料は, 歳入の見込み額に至らなかったため, 未達成となった。				
	進捗状況【活動】	遅れている						
計画変更(次年度以後)	取組内容	有	コメント	平成30年度からの料金改定としたことに伴い, 平成29年度中に条例改正を行うこととした。また, 計画値についても平成29年度は料金改定前の歳入見込みとした。				
	計画値	有						
評価	評価者	鬼沢 徹雄	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	利用料金の見直しにあたっては, 利用者ニーズに即した料金体系及び適正な受益者負担等を踏まえながら取り組まれない。				
	方向性	継続実施						

H28

アクションプラン全体計画（平成28～32年度）

推進項目	23 受益者負担の適正化					重要度	A		
番号・取組事業名	23003	学校体育施設の受益者負担等見直し			作成日	H28.3.1	更新日	H29.3.31	
担当部署	280200	生涯学習部 スポーツ課			責任者	篠原 忠良		担当者	推進担当
取組年度	H28	～	H30						
効果	歳入増加								
最終目標	体育施設の利用促進を図るとともに、他制度(目的外使用)との整合性を図ったうえで、学校施設開放対象校全校において受益者負担の導入を行なう。								
年度	区分	取組内容・目標							
平成28年度	実施	受益者負担の実施について、目的外使用関係部署と調整を行なう。他自治体へ照会を行い、金額の根拠(電気代等)や算出方法、徴収方法を検討する。							
平成29年度	実施	他自治体の回答を基に、本市事業の受益者負担制度の制定。事務担当者への説明会、利用団体への周知を図る。							
平成30年度	完了	受益者負担制度の運用を開始する。							
平成31年度									
平成32年度									
成果指標	指標名	受益者負担制度導入学校数					単位	校	
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	最終値	
	当初計画値		0	0	63	63	63	63	
	変更計画値	0						0	
効果額	歳入増加	実績値	0					0	
		当初計画額						0	
		変更計画額						0	
	歳出削減	実績額						0	
		当初計画額						0	
		変更計画額						0	
計	実績額	0	0	0	0	0	0		
	当初計画額		0	0	0	0	0		
	変更計画額		0	0	0	0	0		
見込まれる その他効果 (金額以外)									

アクションプラン(平成28年度)

推進項目	23 受益者負担の適正化				重要度	A		
番号・取組事業名	23003	学校体育施設の受益者負担等見直し	作成日	H28.3.1	更新日	H29.3.31		
担当部署	280200	生涯学習部 スポーツ課	責任者	篠原 忠良	担当者	推進担当		
	区分	取組内容・目標						
平成28年度	実施	受益者負担の実施について、目的外使用関係部署と調整を行なう。 他自治体へ照会を行い、金額の根拠(電気代等)や算出方法、徴収方法を検討する。						
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
1	学校開放利用と目的外使用の制度について、目的外使用所管課と協議			○	○	○	○	
2	受益者負担の導入状況について、他自治体へ照会			○				
3	金額や徴収方法を検討				○	○	○	
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	平成28年度より管理指導員を廃止し、各団体の責任者、総括管理責任者を全校に置いた。これにより、学校施設開放運営委員会と各団体による自主的運営を進める形となった。これが、受益者負担を検討する土台となる。目的外使用所管課との協議や金額設定、徴収方法等については他市事例等を参考に、受益者負担のあり方を引き続き慎重に検討し進めていく必要があると考える。				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	受益者負担制度導入学校数	計画値	単位	校	実績値	単位	校
				0		0		
	達成状況【成果】	達成	コメント	受益者負担を進める上で必要と考える各団体による自主的運営を進めるために、各団体の責任者をまとめる役割を担う総括管理責任者を全校に配置した。また、目的外使用所管課との協議や制度運用面(金額設定や徴収方法等)については、他市事例等を参考に受益者負担のあり方について慎重に検討した。				
	進捗状況【活動】	計画どおり						
計画変更(次年度以後)	取組内容	有	コメント	地域スポーツ団体の活動場所である学校体育施設は、目的外使用(使用の特例で学校長が許可権者)と、教育委員会が実施している学校施設開放事業の2方式により運営されている。その利用内容や目的が類似していることから、制度の一元化を前提とした検討を優先的に行う。学校体育施設の受益者負担への移行については、31年度目途にスポーツ施設個別計画を策定するため、学校体育施設の有効活用と併行して検討していくこととなった。				
	計画値	有						
評価	評価者	鬼沢 徹雄	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	目標達成に向けて、スピード感をもって取り組まれない。				
	方向性	継続実施						

H28

アクションプラン全体計画（平成28～32年度）

推進項目	23 受益者負担の適正化				重要度	B			
番号・取組事業名	23004	手賀沼エコマラソンの経費削減	作成日	H28.3.1	更新日	H29.3.31			
担当部署	280200	生涯学習部 スポーツ課	責任者	増田 義男	担当者	推進担当			
取組年度	H28	～	H32						
効果	歳出削減								
最終目標	大会参加費で大会運営を行えるよう、段階的に参加費を上げ市負担金を削減していく。 ・大会参加費を増額する。 ・大会開催負担金（柏市及び我孫子市）を減額する。								
年度	区分	取組内容・目標							
平成28年度	実施	平成29年度の大会参加費増額について、両市及び事務局、実行委員の共通理解を図る。							
平成29年度	実施	大会参加費1,000円値上げする。（参加費5,500円予定）大会負担金（両市）の減額を行う。							
平成30年度	実施	平成29年度と同様。（参加費5,500円予定）							
平成31年度	実施	32年度の大会参加費増額について、両市及び事務局、実行委員の共通理解を図る。							
平成32年度	完了	大会参加費1,000円値上げする。（参加費6,500円予定）大会負担金（両市）の減額を行う。（事務経費程度）							
成果指標	指標名	開催市負担金の削減					単位	千円	
	年度	平成27年度 当初予算(基準)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	最終値	
	当初計画値	人口一人当たりの 負担金27円	—	4,500	4,500	4,500	1,000	1,000	
	実績値	11,010千円	—					0	
効果額	歳入増加	当初計画額						0	
		変更計画額						0	
		実績額						0	
	歳出削減	当初計画額		0	6,500	6,500	6,500	10,000	29,500
		変更計画額	11,010						0
		実績額		0					0
計	当初計画額			6,500	6,500	6,500	10,000	29,500	
	変更計画額	11,010	0	0	0	0	0	0	
	実績額		0	0	0	0	0	0	
見込まれる その他効果 (金額以外)									

アクションプラン(平成28年度)

推進項目	23 受益者負担の適正化				重要度	B				
番号・取組事業名	23004	手賀沼エコマラソンの経費削減	作成日	H28.3.1	更新日	H29.3.31				
担当部署	280200	生涯学習部 スポーツ課	責任者	増田 義男	担当者	推進担当				
	区分	取組内容・目標								
平成28年度	実施	平成29年度の大会参加費増額について、両市及び事務局、実行委員の共通理解を図る。								
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月			
1	大会経費の見直し等(参加人数、参加費など)や大会委託経費の見直し等による削減			○			○			
2	大会事務局会議(実行委員会)での協議			○	○	○	○			
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
進捗										
	上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	第22回大会より新コースの設定と公認コース、公認レースの申請を行った。新コースでは、1点目に「スタート地点の変更」により幅員の拡大、2点目に「折り返し地点の変更」により混雑の解消、以上2点、安全なコース設定により参加者の増員を行った。今回の大会運営経験を踏まえ次回大会では、公認レースとなり更なる参加者増が見込める。参加人数の増員や参加費の値上げ、大会参加者による受益者負担と自主運営の支援という観点のもと、参加費収入の見直しや事業費とのバランスを考え段階的に取り組んでいく。					
進捗・実績										
	年度末	成果指標名	開催市負担金の削減		計画値	単位	千円	実績値	単位	千円
						—		—		
		達成状況【成果】	達成	コメント	新コースの設定により市民枠参加者の増員を実施した。次年度は、一般枠の増員を検討している。参加者の増員や参加費の値上げ、大会運営事業について、大会参加者による受益者負担と自主運営の支援という観点のもと、参加費収入の見直しや事業経費とのバランスの検討を行った。引き続き検討を行い、段階的に受益者負担の適正化を図っていく。					
		進捗状況【活動】	計画どおり							
	計画変更(次年度以後)	取組内容	有	コメント	負担金については、人口一人当たりの金額を設定し、長きに渡り算定根拠としている。大会参加者による受益者負担と自主運営の支援という観点のもと、負担金支出の考え方について十分に整理する必要があり、参加者収入の見直しとのバランスを考慮しながら負担金の見直しを図ることとした。					
		計画値	有							
評価	評価者	篠原 忠良	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする							
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	受益者負担とのバランスを考えながら、負担金の考え方を整理して見直しを図ってください。						
	方向性	内容見直し								